

# 古文ドリル：「給ふ」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「給ふ」の正体（2用法）

古文の補助動詞「給ふ」は、**活用の段（四段か下二段か）**で意味がまったく変わります。見分けの最短ルートは**連体形・已然形**を見ることです。

用法	活用	訳	例
① 尊敬の補助動詞	<b>四段</b> （給は・給ひ・給ふ・給ふ・給へ・給へ）	お～になる／～なさる	仰せ <b>給ふ</b>
② 謙讓の補助動詞	<b>下二段</b> （給へ・給へ・給ふ・ <b>給ふる</b> ・ <b>給ふれ</b> ・給へよ）	～ております／～ております	思ひ <b>給ふる</b>

### 識別の鉄則

1. **連体形「給ふる」・已然形「給ふれ」**を見たら → **下二段＝謙讓**（決定的）。
2. **未然形「給は」**（給はず・給はで）を見たら → **四段＝尊敬**。
3. **未然形「給へ」**（給へず）を見たら → **下二段＝謙讓**。
4. **直前の動詞が「思ふ・見る・聞く・覚ゆ・知る」**など**感覚・思考動詞**で、会話文・心内文なら → **下二段＝謙讓**の可能性大。
5. **主語が貴人**（帝・大臣・姫君など）で地の文なら → **四段＝尊敬**。

## 🎯 解き方のコツ（試験本番で3秒）

### コツ① 「給ふる」「給ふれ」が見えたら謙讓（下二段）

- ・ 連体形**給ふる**・已然形**給ふれ**は下二段だけの形。「思ひ給ふる」「見給ふれば」を見たら謙讓「～ております」で即決。

### コツ② 「給は」は尊敬（四段）、「給へず」は謙讓（下二段）

- ・ 「給は**ず**／給は**で**」＝四段未然＝尊敬。
- ・ 「給**へず**」＝下二段未然＝謙讓。
- ・ 同じ「ず」が付いても、直前が「給は」か「給へ」かで段が分かる。

### コツ③ 直前の動詞と文の種類を見る

- 会話文・心内文で「**思ひ**給ふ／**見**給ふ／**聞き**給ふ／**覚え**給ふ／**知り**給ふ」→ 下二段謙譲を疑う。
- 地の文で主語が貴人 → 四段尊敬。

### よくある引っかけ

- 「給へば／給へど」は四段已然形＝尊敬（下二段なら「給ふれば／給ふれど」）。
- 「給へ。」と文を終えていれば四段命令形＝尊敬「～なさい」。
- 連用形に付かず「物を給ふ」のように使えば**本動詞**「お与えになる」。

## 採点表

各セッションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
- 標準 (Q21～Q50) : /30
- 応用 (Q51～Q80) : /30
- 入試レベル (Q81～Q100) : /20
- 合計 : /100

## 【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

活用形がはっきり分かる例で、四段（尊敬）と下二段（謙譲）を見分ける。

### Q1. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

帝、歌詠み**給ふ**。

**答え**：四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説**：主語は「帝」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「帝が歌をお詠みになる」。尊敬。

### Q2. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

思ひ**給ふる**。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形が「給ふる」になっているので下二段。「思っております」。話し手の謙遜を表す謙讓。

---

**Q3. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

仰せ給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**「仰せ」は「仰す」連用形。終止形「給ふ」は四段。「おっしゃる」。動作の主への敬意=尊敬。

---

**Q4. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

見給ふれば。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形が「給ふれ」になっているので下二段。「見ておますと」。感覚動詞「見」+下二段謙讓の典型。

---

**Q5. 次の傍線部「給は」を識別せよ。**

読み給はず。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給は」+打消「ず」。下二段なら未然形は「給へ」。「給は」は四段。「お読みにならない」。尊敬。

---

**Q6. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

大臣、出で給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語は「大臣」(貴人)、終止形「給ふ」は四段。「大臣が外出なさる」。尊敬。

---

**Q7. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

覚え給ふる。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。感覚動詞「覚ゆ」+給ふる。「思われております」。謙讓。

---

**Q8. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。**

立ち給ひぬ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給ひ」＋完了「ぬ」。四段連用形は「給ひ」（下二段は「給へ」）。「お立ちになった」。尊敬。

---

**Q9. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

聞き給へず。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給へ」＋打消「ず」。四段の未然形は「給は」なので、「給へ」は下二段。「聞いておりません」。謙讓。

---

**Q10. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

姫君、琴弾き給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語は「姫君」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「姫君が琴をお弾きになる」。尊敬。

---

**Q11. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

知り給ふること。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。感覚・思考動詞「知る」＋給ふる。「存じております（こと）」。謙讓。

---

**Q12. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

帝、ご覧じ給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語は「帝」、終止形「給ふ」は四段。「ご覧じ」（ご覧になる）＋尊敬「給ふ」で二重尊敬。尊敬。

---

**Q13. 次の傍線部「給は」を識別せよ。**

仰せ給はで。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給は」＋打消接続「で」。「給は」は四段。「おっしゃらないで」。尊敬。

---

**Q14. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

思ひ給ふれど。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。「思っておりますけれど」。思考動詞「思ふ」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q15. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

中納言、参り給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語は「中納言」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「中納言が参上なさる」。尊敬。

---

**Q16. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

急ぎ給へ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」。文末で「お急ぎなさい」と命令。四段の命令形。尊敬。

---

**Q17. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

見給ふるに。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「見ておりますと」。感覚動詞「見」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q18. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

上、笑ひ給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語は「上」（帝・貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お笑いになる」。尊敬。

---

**Q19. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

申し給へば。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給へ」＋「ば」。下二段なら已然形は「給ふれ」。「給へ」は四段已然形。「申し上げなさるので」。尊敬。

**Q20. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

承り給ふる。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「承っております」。謙讓。

## 【第2部】標準編 (Q21～Q50)

直前の動詞・文の種類（地の文／会話文）も手がかりに見分ける。

**Q21. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

大将、文書き給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「大将」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お書きになる」。尊敬。

**Q22. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

いとうれしく思ひ給ふる。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。会話文で話し手が「たいそううれしく思っております」と謙遜。謙讓。

**Q23. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。**

歩み出で給ひけり。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給ひ」＋過去「けり」。四段連用形「給ひ」。「歩み出なされた」。尊敬。

**Q24. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

え見給へず。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給へ」＋打消「ず」。「えへず」で「見ることができません」。感覚動詞「見」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q25. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

后、われを召し給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「后」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お呼びになる」。尊敬。

---

**Q26. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

聞き給ふれば、げにと覚ゆ。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。「聞いておりますと」。感覚動詞「聞く」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q27. 次の傍線部「給は」を識別せよ。**

帰り給はず。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給は」＋打消「ず」。「給は」は四段。「お帰りにならない」。尊敬。

---

**Q28. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

心得給ふる。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「心得ております（承知しております）」。謙讓。

---

**Q29. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

君、歌うたひ給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「君」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お歌いになる」。尊敬。

---

**Q30. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

覚え給へず。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給へ」＋打消「ず」。四段未然は「給は」なので「給へ」は下二段。「思われません（覚えておりません）。謙讓。

---

**Q31. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

とく往（い）に給へ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」。「早くお行きなさい」と命令。四段命令形。尊敬。

---

**Q32. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

大殿、渡り給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「大殿」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「おいでになる」。尊敬。

---

**Q33. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

見給ふるままに。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「見ておりますにつれて」。感覚動詞「見」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q34. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。**

物語し給ひて。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給ひ」＋接続助詞「て」。四段連用形「給ひ」。「お話しになって」。尊敬。

---

**Q35. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

思ひ給ふれど、え言はず。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。「思っておりますけれど、言えません」。会話文の謙讓。

**Q36. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

院、笛吹き給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「院」（上皇・貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お吹きになる」。尊敬。

**Q37. 次の傍線部「給は」を識別せよ。**

出で給はむとす。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給は」＋意志「む」。「給は」は四段。「お出ましになろうとする」。尊敬。

**Q38. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

うけたまはり給ふるやうは。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「承っております様子は」。謙讓。

**Q39. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

親王（みこ）、馬に乗り給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「親王」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お乗りになる」。尊敬。

**Q40. 次の傍線部「給へず」を識別せよ。**

知り給へず。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給へ」＋打消「ず」。四段未然是「給は」。「給へ」は下二段。「存じません」。謙讓。

---

**Q41. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

中宮、櫛けづり**給ふ**。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「中宮」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お梳きになる」。尊敬。

---

**Q42. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

見**給ふれ**ど、定かならず。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。「見ておりますけれど、はっきりしません」。感覚動詞「見」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q43. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。**

嘆き**給ひ**けり。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給ひ」＋過去「けり」。四段連用形。「お嘆きになった」。尊敬。

---

**Q44. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

さも思ひ**給ふる**。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「そのようにも思っております」。思考動詞「思ふ」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q45. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

主上（うへ）、うなづき**給ふ**。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「主上」（帝）、終止形「給ふ」は四段。「うなづきなさる」。尊敬。

---

**Q46. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

心して仕うまつり給へ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」。「心してお仕えなさい」と命令。四段命令形。尊敬。

**Q47. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

聞き給ふることも。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「聞いております事々」。感覚動詞「聞く」＋下二段謙讓。謙讓。

**Q48. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

大納言、髪なで給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「大納言」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「おなでになる」。尊敬。

**Q49. 次の傍線部「給は」を識別せよ。**

許し給はば。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給は」＋假定「ば」。「給は」は四段。「お許しになるなら」。尊敬。

**Q50. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

覚え給ふれば。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。「思われておりますので」。感覚動詞「覚ゆ」＋下二段謙讓。謙讓。

## 【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

「給へ」（四段已然・命令／下二段未然）の判別、本動詞、紛らわしい例を中心に。

**Q51. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

仰せ給へば、かしこまる。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給へ」＋「ば」。下二段なら「給ふれば」。「給へば」は四段已然形。「おっしゃるので」。尊敬。

**Q52. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

思ひ給へず。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給へ」＋打消「ず」。四段未然是「給は」。「給へず」は下二段。「思っておりません」。謙讓。Q51（給へば＝四段）と比べて段を見抜く。

**Q53. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

いざ、もろともに行き給へ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」。「さあ、一緒においでなさい」。四段命令形。尊敬。

**Q54. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

心細く覚え給ふる。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「心細く思われています」。感覚動詞「覚ゆ」＋下二段謙讓。謙讓。

**Q55. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

聞き給へで、過ぎぬ。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給へ」＋打消接続「で」。四段未然是「給は」。「給へ」は下二段。「聞かないでおります」。謙讓。

**Q56. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

とどまり給へと申す。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」。「お留まりください」と命令。四段命令形。尊敬。

---

**Q57. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

帝、剣を給ふ。

**答え：**本動詞「給ふ」（お与えになる） **解説：**直前が体言「剣を」で、動詞の連用形ではない。補助動詞ではなく本動詞「給ふ」。「帝が剣をお与えになる」。尊敬の本動詞。

---

**Q58. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

思ひ給ふれど、口には出ださず。

**答え：**下二段活用・謙譲の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。「思っておりますが、口には出しません」。会話・心内文の謙譲。

---

**Q59. 次の傍線部「給は」を識別せよ。**

仰せられ給はず。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給は」＋打消「ず」。「給は」は四段。「おっしゃらない」。尊敬（「仰せられ」と二重尊敬）。

---

**Q60. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

いかが思ひ給ふる。

**答え：**下二段活用・謙譲の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段（係助詞・疑問の結び）。「どのように思っておりますか」。謙譲。

---

**Q61. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

上、のたまはせ給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「上」（帝）、終止形「給ふ」は四段。「のたまはせ」（おっしゃる）＋給ふで二重尊敬。尊敬。

---

**Q62. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

上達部（かんだちめ）、酒たうべ**給ふ**。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「上達部」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「酒を召し上がる」。尊敬。

**Q63. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

げに見**給ふる**に、あはれなり。

**答え：**下二段活用・謙譲の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「なるほど見ておりますと、しみじみと趣深い」。感覚動詞「見」＋下二段謙譲。謙譲。

**Q64. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。**

うち泣き**給ひぬ**。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給ひ」＋完了「ぬ」。四段連用形。「お泣きになった」。尊敬。

**Q65. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

知り**給へ**で侍り。

**答え：**下二段活用・謙譲の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給へ」＋打消接続「で」。「給へ」は下二段。「存じませんで（ごぞいます）」。謙譲。

**Q66. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

大君、笛を人に**給ふ**。

**答え：**本動詞「給ふ」（お与えになる） **解説：**直前が体言「笛を」で動詞連用形ではない。本動詞「給ふ」で「笛を人にお与えになる」。尊敬の本動詞。

**Q67. 次の傍線部「給ふれば」を識別せよ。**

承り**給ふれば**。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。「承っておりますので」。謙讓。

---

**Q68. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

はやく出で給へ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」。「早くお出ましなさい」。四段命令形。尊敬。

---

**Q69. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

ありがたく思ひ給ふる。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「ありがたく思っております」。思考動詞「思ふ」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q70. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

殿、御簾を上げ給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「殿」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お上げになる」。尊敬。

---

**Q71. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

見給へしに。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給へ」＋過去「き」連体形「し」。四段連用は「給ひ」なので「給へ」は下二段の連用形。「見ておりましたが」。謙讓。

---

**Q72. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

後の宮、まどろみ給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「後の宮」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「うとうとなさる」。尊敬。

---

**Q73. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

聞き給ふるにつけても。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「聞いておりますにつけても」。感覚動詞「聞く」＋下二段謙讓。謙讓。

**Q74. 次の傍線部「給ひ」を識別せよ。**

涙を流し給ひけり。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給ひ」＋過去「けり」。四段連用形。「涙を流しなされた」。尊敬。

**Q75. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

たまさかに見給へしかど。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給へ」＋過去「き」已然形「しか」。四段連用は「給ひ」なので「給へ」は下二段連用形。「たまたま見ておりましたが」。謙讓。

**Q76. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

帝、御衣（おんぞ）を脱ぎて給ふ。

**答え：**本動詞「給ふ」（お与えになる） **解説：**直前は「脱ぎて」で、別の動作のあと改めて「給ふ」。ここは本動詞で「お与えになる」。「お召し物をお与えになる」。尊敬の本動詞。

**Q77. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

知り給ふればこそ。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。「存じておりますからこそ」。謙讓。

**Q78. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

春宮（とうぐう）、文読み給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「春宮」（皇太子・貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お読みになる」。尊敬。

---

**Q79. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

急ぎ参り給へ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」。「急いで参上なさい」。四段命令形。尊敬。

---

**Q80. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

あさましく覚え給ふる。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「あきれほどに思われております」。感覚動詞「覚ゆ」＋下二段謙讓。謙讓。

---

## 【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

---

文の種類・主語・直前動詞を総合して、四段尊敬・下二段謙讓・本動詞を判別する。

---

**Q81. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

大臣、われに位を給ふ。

**答え：**本動詞「給ふ」（お与えになる） **解説：**体言「位を」＋給ふで、動詞連用形に付いていない。本動詞「給ふ」で「位をお与えになる」。尊敬の本動詞。

---

**Q82. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

をさなき心地に、いみじとのみ思ひ給ふる。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。心内文で「幼な心に、ただすばらしいとばかり思っております」。思考動詞「思ふ」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q83. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

仰せ給へど、聞かず。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給へ」＋「ど」。下二段なら「給ふれど」。「給へど」は四段已然形。「おっしゃるけれども、聞かない」。尊敬。

**Q84. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

御覧じ給へ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」。「ご覧なさいませ」。四段命令形。尊敬（御覧じ＋給へで二重尊敬）。

**Q85. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

をかしと見給へしかば。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給へ」＋過去「き」已然形「しか」。四段連用は「給ひ」なので「給へ」は下二段。「趣深いと見ておりましたので」。謙讓。

**Q86. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

入道殿、双六（すごろく）打ち給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「入道殿」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「双六をお打ちになる」。尊敬。

**Q87. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

心のうちに思ひ給ふれば、いとほし。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。心内文で「心の中で思っておりますと、気の毒だ」。思考動詞「思ふ」＋下二段謙讓。謙讓。

**Q88. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

院、笑ひて答へ給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「院」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「笑ってお答えになる」。尊敬。

---

**Q89. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

聞き給へしことを申す。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給へ」＋過去「き」連体形「し」。四段連用は「給ひ」なので「給へ」は下二段。「聞いておりましたことを申し上げる」。謙讓。

---

**Q90. 次の傍線部「給は」を識別せよ。**

思し召し給はぬにや。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**未然形「給は」＋打消「ぬ」。「給は」は四段。「お思いにならないのだろうか」。尊敬（思し召し＋給はで二重尊敬）。

---

**Q91. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

うけたまはり給ふるにつけて、涙ぐむ。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「承っておりますにつけて、涙ぐむ」。謙讓。

---

**Q92. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

帝、御手づから杯を給ふ。

**答え：**本動詞「給ふ」（お与えになる） **解説：**体言「杯を」＋給ふで、動詞連用形に付かない。本動詞で「御自身の手で杯をお与えになる」。尊敬の本動詞。

---

**Q93. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

思ひ給へわづらひ侍り。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連用形「給へ」＋「わづらふ」。四段連用は「給ひ」なので「給へ」は下二段連用形。「思いあぐねております」。思考動詞「思ふ」＋下二段謙讓。謙讓。

---

**Q94. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

女御、琴をかき鳴らし給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「女御」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「かき鳴らしなさる」。尊敬。

**Q95. 次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。**

見給ふれども、それとも分かず。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**已然形「給ふれ」は下二段。「見ておりますけれど、それと分かりません」。感覚動詞「見」＋下二段謙讓。謙讓。

**Q96. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

安らかに過ごさせ給へ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」。使役・尊敬「させ」＋「給へ」で「安らかに過ごしてください」。四段命令形。尊敬。

**Q97. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。**

数ならぬ身に知り給ふる。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「取るに足りない身ながら存じております」。謙讓。

**Q98. 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。**

大将、矢を取りて射給ふ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**主語「大将」（貴人）、終止形「給ふ」は四段。「お射になる」。尊敬。

**Q99. 次の傍線部「給へ」を識別せよ。**

よくよく聞き給へよ。

**答え：**四段活用・尊敬の補助動詞「給ふ」 **解説：**命令形「給へ」＋念押し「よ」。「よくよくお聞きなさいよ」。四段命令形。尊敬。

### Q100. 次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

ただ今見**給ふる**夢のごとし。

**答え：**下二段活用・謙讓の補助動詞「給ふ」 **解説：**連体形「給ふる」は下二段。「ちょうど今見ております夢のようだ」。感覚動詞「見」＋下二段謙讓。謙讓。

## 採点振り返り

おつかれさまでした。間違えた問題は、「給ふ」の**活用の段**をもう一度確認しましょう。

- **四段活用＝尊敬**「お～になる」。未然形**給は**・連用形**給ひ**・已然/命令形**給へ**（給へば・給へど・給へ）。主語は貴人、地の文に多い。
- **下二段活用＝謙讓**「～ております」。未然形**給へ**（給へず）・連用形**給へ**・連体形**給ふる**・已然形**給ふれ**。会話文・心内文で「思ふ・見る・聞く・覚ゆ・知る」の後に多い。
- **本動詞「給ふ」**＝「お与えになる」。動詞の連用形に付かず、体言＋をなどに続く。
- いちばんの決め手は「**給ふる**」「**給ふれ**」＝**下二段謙讓**、「**給は**」＝**四段尊敬**。

連体形と未然形を見れば一瞬で見分けられます。敬語は読解の主語判定に直結するので、確実にしておきましょう。

この問題集は無料です。古文の他の敬語（参る・奉る・侍り候ふ）のドリルや、文法解説とあわせてご活用ください。

**誰でも古典塾** (<https://kotennosenensei.com>) / 個別指導塾フィット・中本裕太